

視察レポート

群馬県 甘楽町 沼田市

◎ 甘楽町

○ 目的

甘楽町は、「土砂等による埋立て等の規制に関する条例」を平成29年9月に制定している。その制定経緯と条例の内容、施行後の取り扱い等を当町の残土問題に関する参考とするため。

また、平成12年にオープンした「甘楽ふるさと農園」は、町内在住者だけではなく、県外からの利用者もいる充実した農園であり、開園までの経緯と運営内容等を当町の農地・農業政策の参考とするため。

・甘楽町土砂等による埋立て等の規制に関する条例について

群馬県では「土砂等による埋立て等の規制に関する条例」を制定し、県下の市町村にもその制定を推奨し



甘楽町 甘楽ふるさと農園にて

ており、甘楽町でも近隣市町村の制定に合わせて条例を制定した。条例施行後2年経過しているが、条例の規制対象となる事例はこれまで発生していない。

条例には違反事業に対する現状復帰の規定はないが、条例の規定により対応することとし、地元住民または自治会の同意規定についても同様である。

・甘楽ふるさと農園について

市民農園構想の検討開始から6年の準備期間を経て、「甘楽ふるさと農園」をオープンした。この農園は単なる貸し農園ではなく、

所感

甘楽町土砂等による埋立て等の規制に関する条例については、問題が顕在化する前からの取組みであり、これまでの適用案件が無いことから、本条例による抑止力が働いていると考えられる。条例制定にあたり、最も考慮されたポイントが「土壌環境への影響」であった点は重要である。早急に、上位条例との関係等を調査し、東京都の動向を見ながら、当町の条例改正の準備を考えていきたい。

甘楽ふるさと農園については、先ず目を見張ったのは「オーケション」環境の素晴らしさであった。議会での一般質問を契機に、先進地視察、協議会を経て開設された。有機栽培による農作物の生産体験を地元農家の方から手ほどきをつけ、収穫の楽しみが得られることである。特筆すべき点は、甘楽町以外からの利用者が多く、友好都市である東京都北区の方が全体の約20%を占め、滞在型農園ということである。単純に当町の町民農園と比較は出来ないが、当町の都市農業活性化につなげられる多くのヒントを頂いた。

◎ 沼田市

○ 目的

当町では、住民福祉の向上と健康増進を目的に「ひので三ツ沢つるる温泉」「ひので肝要の里」を設置しているが集客力が乏しく、特に肝要の里の業務が農産物の加工が主になっていることから、「道の駅白沢」の運営状況等を当町の観光・農業政策等の参考とするため。

・道の駅 白沢について

日本一の河岸段丘と赤城山を望む展望露天風呂が楽しめ、多くの利用客で賑わう日帰り温泉施設「望郷の湯」を中心に、農産物直売所、レストラン、市民向けの福祉センターが配置され、エリア全体が「道の駅」と

所感

沼田市は東京圏との間の交通利便性を背景として観光と農業に力を入れているが、従事者の高齢化や近隣施設との競合など、当町とも共通する課題を抱えている。この10年で農業人口が約30%減少、耕作放棄地が約60%増加するなど農業が縮小しつつあり、その活性化が急務となっている。一方、道の駅直結の農産物直売所や観光農園を有しており、それらを生かすべく市はブランド化と6次産業化を農業戦略として打ち出している。

その一環として、一定の条件を満たす農産物の「ぬまた」ブランド認証や6次産業化計画を有する農業者の認証制度を設け、新商品開発、海外への販路拡大、市場ニーズとのマッチングなどの支援に市が取り組んでいることは注目している。総合的に見ると、好立地に関連する施設を集中し、さらに市民向けの福祉センターも併設し、施設全体の価値を高めている点は大いに参考になると考える。



沼田市 道の駅 白沢にて

して観光客を誘致するだけでなく、人々の交流や憩いの場として多くの市民にも親しまれている。

農産物直売所「座・白沢」は、「望郷の湯」の目の前にあり、観光客から勤め帰りの市民まで、一日中訪れる人が絶えない施設で、野菜や果物等の販売、特産物や民芸品も飾られ、ドライブの途中で立ち寄るにも最適な「オーケション」になっている。